

		学校教育計画						
教育方針		校訓「愛・敬・誠」を実践し、知・徳・体のバランスのとれた全人教育を行う。 心からの思いやりと真心をもって”誠心誠意”人にも事にも尽くすことのできる人間を育てる。						
前年度の成果と課題		本年度の重点目標		本年度の具体的目標		全体評価		
・オンラインによる学習環境を整え、臨時休業中でも学びをとめることなく、希望進路実現に向けた学習ができた。 ・コロナ禍で学校行事に制限があったが、最大限の感染対策を講じた活動が行えた。 ・部活動では大会中止などを乗り越え、代替大会等で好成績をあげることができた。		1. 本校生としての誇りを持ち、自分の行動に責任がとれる生徒を育成する。 2. 学ぶ目標を持ち、その実現に努める生徒を育成する。 3. 社会に貢献できる生徒を育成する。		①気持ちの良い挨拶ができる生徒を育てる。 ②善悪の判断が正しくできる生徒を育てる。 ③規則がきちんと守れる生徒を育てる。 ④今持っている力を伸ばす。(鍛錬) ⑤新しいものに目を向けさせる。(挑戦) ⑥保護者との連携を密接にする。		B		
評価項目	本年度の主な活動目標	本年度の主な具体的方策		評価	次年度の改善策			
教科	国語	国語を適切に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす	朝の読書の徹底と校内漢字テストの充実		B	興味のある本を見つけ、朝の読書を徹底させる		
	地歴公民	活きた知識として活用できる、主体的な学習を促していく	ICTを最大限活用し、積極的な学びを提供する		B	さらなるICTの活用を推進し、積極的な学びが体現できるよう授業改革を進めていく。		
	数学	数学的思考力を養い、日常生活に存在する疑問点を数学を使って解決できる能力を身に付ける	授業や課外活動を通じて、解けると「楽しい」ことを体験し、問題解決に向けた取り組みができるようになる		C	日常生活に存在する数学を発見し、課題研究を通して、数学的思考力を養う学びを展開したいと考えています。		
	理科	論理的思考力と基礎計算力を身につけることで、自然現象に対する理解を深める	学習したことを基に、意見をまとめて発表できるような授業や課題になるよう工夫する		B	発表や課題に取り組み時間を確保するために、PC等の多様な利用法を検討し、教授法の向上に務める。		
	保健体育	運動への関心を高め積極的・継続的に取り組む姿勢を養う	継続的に運動・部活動に取り組む。基本的な生活習慣を心がけ健康な体をつくる。感染症予防対策に留意しより良い授業が出来るよう心がける		B	基本的な生活習慣を身に届け、学校生活・部活動・学習に全力で取り組む。感染対策を確実におこなう。		
	芸術	芸術についての表現力を養い、感性豊かな人間性の育成を目指す	芸術の鑑賞体験を増やし、個人・グループによる「表現」に重点をおいた授業を実施する		B	次年度は実技表現の時間を本年度より確保し、生徒の充実感の達成にフォーカスしたい		
	英語	聞く、読む、話す、書くという4技能を通じて、伝え合ったりするコミュニケーション活動を大切にす	生徒への発問の工夫とビジュアル素材をできる限り利用する		B	正しい言語習得に向けて、聞く・話すという作業をもう少し増やす。		
	家庭	家庭や地域の生活に関わる実践的な知識と技術を習得させる	学習内容をよく吟味し、生活に役立つ知識を教えていく		B	生活に役立つ実践的な知識を重点視し、衛生面に配慮した授業を行う		
	情報	メディアリテラシー(情報活用能力)を身に付けさせ、情報社会に主体的に参画する力を養う	授業においてメディアリテラシーを身に付けさせ、実習を通して実践力を養う		B	メディアリテラシーの育成に十分に努めたが、完全に浸透したとは言えない。次年度は具体的な事例を話し、さらに理解を深めたいと思う。		
	商業	商業の専門科目の修得に全力を尽くす	専門科目の提出物を必ず提出させる		C	商業科目の専門用語を、もっと分かりやすくする工夫をする。		
指導	看護	看護に必要な人間性を育み科学的根拠に基づいた基礎的な看護実践能力を養う	カリキュラムを通して、個々の目標を達成するために個別指導を充実させる		C	看護職に必要な臨床判断力を高めるために学修風土に醸成する		
	福祉	福祉の意義を理解し、実践しようとする心と行動力を育てる	興味関心を高めさせ、思いをもって実践することで自尊心を育てる		B	福祉に関する興味関心を育み、自尊心を育てる。		
	未来クエスト	自らの進路に合った専攻を選択させ、彩り豊かな未来を創造する力を養う	オリエンテーションで各専攻の魅力を伝える。専攻別授業では、各専攻の特色を十分に発揮した授業展開を行う		B	新しく設置された教科であり、まだ未成熟な部分が多い。コロナ禍の影響を受け、外部との連携がままならなかったため、次年度は改善していきたい。		
	教務	労務環境の改善に努め、生徒と向き合う時間を増やす	校務支援システムの導入がスムーズに行われるよう、きめ細かなサポートを行なう		B	分掌内の役割分担を明確にし、業務を円滑に遂行できるように努めたい。		
	総務	学校行事の裏方として、活動がスムーズに行えるようにサポートする	学校生活が円滑に行えるようにサポートを丁寧に行う		B	行っていない行事が多いが、来年度以降は行っていくように努める。奨学金を生徒に紹介し、有効に活用していく。		
	総務(管理)	学校生活の安全を図り、また環境美化に努める	避難訓練、全校一斉清掃の重要性を認識させ、真剣かつ緊張感を持って取り組む		C	清掃や危機管理意識の能動的な改善を目指す。健康に配慮した校内活動を強化する。		
	生徒指導	社会に有用な人物に成るため、自ら考え、判断し、行動できる人材を育成する	生徒を理解するための活動(個人面談、家庭訪問)を充実させ、生徒の思いと背景を理解し、生徒の自己実現を支援する活動に重点を置く		B	個人面談や家庭訪問を充実させ、生徒個人の内面としっかり向き合う教育を実践していく		
	進路指導(進学)	生徒が将来の目標を見つけることができるためのイベントを開催する	外部講師を招き、年間計画に基づき各学年に応じた講演会を開催する		B	外部講師の講演をもっと幅広く実施します。そして、生徒も教員も情報のアップデートをし、受験に繋がっていきます。		
	進路指導(就職)	本年度も、就職率100%になるように進路指導していく	就職試験の面接は可否を左右するとても大きなウエイトを占めているため、その指導の充実を努めたい		B	就職試験の際の筆記試験対策(SPI)の充実を図りたい。		
	人権・同和教育	日々、互いの人権意識を高める	「人権・同和教育＝人の幸せ」を基点に実施する		C	「人を大切に思う人権意識」を基点に実施する。		
保健体育	体力増強に努め、感染症予防、体調管理に留意する	部活動へ積極的に参加。換気を行い、マスクの着用、手指消毒の徹底		B	コロナ感染対策として不織布マスクを励行し正しく着用、熟食の徹底をする。			
教育相談	充実した高校生活になるためのサポートを行う	教員間で生徒の情報を共有し、生徒の思いを理解するために傾聴を行う		B	日頃の生徒の様子を知ること、変化に気付く力を養う。			
特活	集団の中で、人間関係をよりよく形成する生徒を育てる	集団の中で、人間関係をよりよく形成する様に啓発する		B	コロナ禍で人間関係をよりよく形成出来るように工夫する。			
厚生	寮生活での集団行動での感染症対策に心がけさせる	感染症予防対策マニュアルに沿った感染対策を徹底させる		B	感染症予防対策の徹底(換気・消毒の徹底)			
1年団	高校生としての自覚を持たせ、責任ある行動を自覚できるようにする	頭髪、服装など身だしなみを整させ、高校生らしい行動を促させる		B	高校生としてきちんとした身だしなみや行動ができるように自覚させる			
2年団	将来を見据え責任ある行動が取れるよう自己の成長に努める	当たり前のことが自然にできるように、個々の成長に合わせた指導		B	3年生として自立、自覚ある行動がとれるようにする。			
3年団	有終の美を飾る	就職・進学100% 全員で卒業		B	全体的によくできた。キャリア教育については進路指導部と連携して十分できた			
商業科	各種検定取得に全力を尽くす	尽誠塾に積極的に参加させる。		B	検定取得者の人数が増加したが、尽誠塾の参加者はいつも決まっている。もっと興味をもてるような工夫が必要である。			
衛生看護科	看護実践における自らの課題に取り組み、基礎的能力を養う	香川県准看護師資格試験全員合格		C	看護臨地実習を全員で全うし、香川県准看護師試験全員合格する。			
特進・進学コース	進路指導に関する情報共有をおこない、生徒が希望する進路の実現に役立てる	有益な情報を得た際に、校内メーリングシステムを用いて情報共有をおこなう		B	毎年変わる入試に関する情報を教員同士で共有し、生徒へどんどん発信して進路実現へ繋がっていきます。			
体育(アスリート)コース	文武両道	健康管理をしっかりと行い、何事にも全力で取り組む		B	体のことを知り、健康管理・感染対策を行い、部活動・学習に全力で取り組む。			
教養コース	現代社会において即戦力として活躍する人材を育成する	規範意識を高める ICT機器を活用できる力を育てる 自己の目指す進路にあわせて個別指導を充実させる		B	コースの歴史を締めくくるために、進路や資格取得に全力を挙げる			
アビリティコース	生徒ひとりひとりに合った専攻を選択させ、各専攻で充実した授業活動を行う	各専攻で合い合うことでオリエンテーションや授業を充実させ、生徒の興味関心を掻き立て、個別に相談を行い、専攻を決定させる		B	オリエンテーションを十分に行うことができ、個別に相談に応じることで専攻を選択させる機会を確保できた。			
評価基準	A・・・十分達成できている		B・・・おおむね達成できている		C・・・どちらかといえば達成できていない		D・・・ほとんどできていない	